



## アトピーにも有効！ [アトピー性皮膚炎臨床試験]

目的	柑橘類加工食品によるアトピー性皮膚炎臨床検査 [肌改善効果]		
治験試料	柑橘類加工食品		
試験機関	水道橋クリニック 治験担当医師 院長：高山 研一		
試験人数	5名（女性4名、男性1名）		
摂取量	920mg/回×3回/日=2,760mg/日		
試験期間	3ヶ月間（8月中旬～11月中旬）		
回数	検査回数=5回（摂取前、摂取後2週間、1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月）		
検内 査容	血液生化学検査	炎症関連	IgA IgE(非特異的) IgE(特異的)：スギ、ヒノキ、ブタクサ、ヨモギ、ヤケヒョウダン、コナヒョウダン、ハウスダスト、ネコ皮膚、イヌ上皮
		内臓機能関連	GOT、GPT、LDH、中性脂肪、カリウム、白血球、赤血球、ヘモグロビン、ヘマトクリット、血小板、総コレステロール、LDL、HDL
	自覚症状スケールアンケート		
	患部撮影		
	医師指導・診察		



水道橋クリニック 院長：高山 研一

【略歴】

University of Nevada, Renoにて分子生物学を専攻し、Bachelor of Science取得  
研究テーマは「小胞体における異種蛋白質の除去」「癌抑制遺伝子 p53のはたらき」

東海大学医学部卒業  
東海大学附属病院勤務  
日本内科学会会員

2005年8月下旬から約3ヶ月間の期間をもって、アトピー性皮膚炎の患者5名に対し柑橘類加工食品を内服させ、症状の変化を追った。

被験者は男性1名、女性4名でいずれも幼少期からアトピー性皮膚炎に罹患し、以来症状の増悪と寛解を繰り返してきた。

症状の程度としては、軽症の症例が3例、中程度から重度の症例が2例であった。

約3ヶ月間の治験期間中、軽症例3例においては著明な変化はなかったが、症状の比較的重い症例2例に関しては、皮膚症状の改善ならびに血液検査におけるIgEの漸減が見られた。

これらのことから、増悪期もしくはactiveなアトピー性皮膚炎に対し、本剤は有効性が期待できるのではないか、と思われた。

〈中略〉

活動期にある症状の比較的重い症例において改善効果が得られたのは大変喜ばしい。

改善点などを考慮して治験を進め、コンセンサスが得られれば、アトピー性皮膚炎に悩む患者さんにとっても朗報となる結果が生まれるのではないかと期待している。